

軍学徒一割制限

伊室 一義 陸士61

朝霞で終戦を迎えた私は8月末日、三重県伊賀上野市に復員した。戦後の猛インフレと食糧難に襲われた多くの人々は、手持ちの衣類を差し出してヤミ米を買うのに奔走した。

我が家は元大地主で、銀行には預金もあつたが、占領軍マッカーサー司令部から矢継ぎ早に出された「農地解放令」や「預金封鎖令」により苦しい生活を強いられていた。そこで、私は一反(990平米)の畑を耕し、何とか食糧難を凌いだ。少し落ち着いた昭和22年春に入り、先輩の勧めもあり旧制高等学校受験を志した。旧制高校は旧帝国大学の予科的な存在で、東京大学を目指すならば、一高、三高、八高へ行く必要があつた。幼年学校と一緒に受験して落ちたM君が八高の3年生になつていたので、私は名古屋の八高を受験することにした。

このとき突如、連合国軍総司令部から発せられたのが「軍学徒一割制限令」である。これは、軍学徒(1年間以上軍の学校に行つていた者)が学校生徒の1割以上を占めると、その学校

が軍国主義化するのではないかという杞憂のためである。陸士61期生5千330名のうち、900名の幼年校出身者がその対象になり、試験で合格点を取つても不合格とされた。当然のことながら私も落ちた。

窮余の打開策として、幼年校卒を隠すため、私は専門学校受験検定を受験することにした。これは英・数・国・漢・歴史・地理・物理・化学・図画・書道などの12科目の試験で、1科目でも落とすと1年間待たねばならない厳しいものだった。

書道では半紙1枚を渡され、千字文と終戦の勅語(後半)を書けという問題で、字配りを考えるのに1時間も掛け、また1字間違えても、ポトリと墨を落としても1年間待たなければならぬといふので、極度の緊張を強いられた。かくて私は軍学徒を隠し旧制静岡高等学校に入学したが、最初の数学の授業でピンチを迎えた。何と教壇に現れたのは幼年学校で数学を習った川合一蔵教官ではないか!「軍学徒がバレたら退学になるのでは?」との恐怖が頭をよぎりまともに頭を上げることができなかつた。後日分かつたことであるが、川合先生は気付いておられたが、見逃して下さつたとのこと。あれから70年が経つ。物忘れがひどいのに、「軍学徒一割制限」は頭にこびりついて離れない。